

14時30分解禁

平成31年1月 全国百貨店売上高概況

平成31年2月21日

I. 概況

1. 売上高総額	4,927億円余
2. 前年同月比	-2.9% (店舗数調整後/3か月連続マイナス)
3. 調査対象百貨店	79社 218店 (平成30年12月対比-1店)
4. 総店舗面積	5,482,600㎡ (前年同月比:-3.7%)
5. 総従業員数	67,710人 (前年同月比:-4.3%)
6. 3か月移動平均値 (店舗数調整後)	6-8月 -1.3%、7-9月 -3.4%、8-10月 -0.4%、 9-11月 -0.6%、10-12月 0.0%、11-1月-1.3%

[参考] 平成30年1月の売上高増減率は-1.2% (店舗数調整後)

【特徴】

1月の売上高は2.9%減(3か月連続マイナス)となった。米中摩擦等海外要因による先行き懸念や株価の変調で消費心理が冷え込み、初商・クリアランスセールが不振だったことに加え、好調に推移してきたインバウンドも、主力中国の景気減速や免税品規制強化で苦戦した。下旬のウィンター バザールで一部盛り返したものの前半の不振を挽回するには至らなかった。

顧客別では、国内市場(シェア94.7%)は2.6%減とマイナス。インバウンド(シェア5.3%)も上記要因の影響等から急伸基調に一服感が出て、7.7%減と26か月ぶりに前年割れした。

地区別では、10都市が3.1%減と2か月連続マイナス。地方(10都市以外の地区)は2.5%減(21か月連続)と双方共にマイナスが続くが、当月は、富裕層やインバウンドの寄与度が高い10都市の不振が強く出たことで、地方との伸び率格差は21か月ぶりに逆転した。

商品別では、化粧品が0.3%増と46か月連続でプラスしたが、雑貨トータルでは0.8%減と26か月ぶりにマイナスした。コート等重衣料の動きが鈍かった衣料品は5.2%減、身のまわり品も2.4%減と苦戦した。食料品は1.2%減と3か月連続でマイナスしたが、菓子は0.1%減とほぼ前年並み。物産展など人気の食品催事は堅調だった。

なお、下旬に加盟150店舗が参加し業界をあげて実施した『プレミアム ウィンター バザール』では、独自企画との連動で集客や売上に寄与した店舗も見られた。

【要因】

- (1) 天 候 : 気象庁発表「1月の天候」の特徴は以下のとおり (一部抜粋)
◇東日本以南では暖かい空気に覆われやすく、寒気の南下が弱かったため、東・西日本では気温が高く、東・西日本日本海側の降雪量はかなり少なくなった。また北・東日本太平洋側と西日本日本海側では、降水量がかなり少なくなった。
- (2) 営業日数増減 30.0日 (前年同月比 ±0.0日)
- (3) 土・日・祝日の合計 10日 (〃 ±0日)
- (4) 入店客数増減 (回答店舗数で見る傾向値/前年同月比/有効回答数127店舗)
①増加した: 34店、②変化なし: 42店、③減少した: 51店
- (5) 1月歳時記(初売り、クリアランス)の売上 (同上/有効回答数80店舗)
①増加した: 4店、②変化なし: 37店、③減少した: 39店

全国百貨店 売上高速報 2019年1月

第1表 地区別売上高

※店舗数調整後（ ）が調整前

地 区	売上高(千円)	構成比(%)	対前年増減(-)率 (%) ※
全 国	492,705,170	100.0	-2.9 (-4.5)
10都市	346,760,307	70.4	-3.1 (-3.4)
札幌	14,151,590	2.9	-1.1
仙台	7,033,346	1.4	-1.3
東京	132,893,951	27.0	-2.9
横浜	29,636,255	6.0	-3.2
名古屋	31,845,763	6.5	-1.2 (-5.1)
京都	20,693,854	4.2	-3.2
大阪	69,647,223	14.1	-3.8
神戸	12,166,084	2.5	-7.9
広島	10,343,653	2.1	-5.3
福岡	18,348,588	3.7	-2.1
10都市以外の地区	145,944,863	29.6	-2.5 (-6.8)
北海道	1,848,871	0.4	22.5
東北	6,868,557	1.4	-2.3 (-11.4)
関東	63,720,006	12.9	-3.8 (-11.2)
中部	11,347,796	2.3	-1.5 (-2.2)
近畿	19,315,863	3.9	-1.6 (-4.6)
中国	10,796,438	2.2	-5.2
四国	8,229,782	1.7	-3.8
九州	23,817,550	4.8	-0.2

第2表 商品別売上高

商 品 別	売上高(千円)	構成比(%)	対前年増減(-)率 (%) ※
総 額	492,705,170	100.0	-2.9 (-4.5)
紳士服・洋品	39,348,530	8.0	-3.9 (-5.4)
婦人服・洋品	111,078,925	22.5	-5.4 (-6.9)
子供服・洋品	11,296,072	2.3	-8.9 (-10.0)
その他衣料品	10,592,391	2.1	-4.2 (-7.6)
衣 料 品	172,315,918	35.0	-5.2 (-6.8)
身のまわり品	71,958,187	14.6	-2.4 (-4.0)
化粧品	43,176,306	8.8	0.3 (-0.5)
美術・宝飾・貴金属	25,611,743	5.2	-2.2 (-3.5)
その他雑貨	18,298,467	3.7	-1.3 (-4.0)
雑 貨	87,086,516	17.7	-0.8 (-2.2)
家 具	4,485,689	0.9	-4.2 (-7.0)
家 電	892,520	0.2	-8.6 (-8.8)
その他家庭用品	14,061,593	2.9	-2.7 (-4.3)
家 庭 用 品	19,439,802	3.9	-3.3 (-5.2)
生 鮮 食 品	21,330,140	4.3	-3.9 (-5.4)
菓 子	33,783,659	6.9	-0.1 (-1.3)
惣 菜	26,450,153	5.4	-1.0 (-1.9)
その他食料品	34,556,482	7.0	-0.8 (-2.9)
食 料 品	116,120,434	23.6	-1.2 (-2.7)
食 堂 喫 茶	12,322,475	2.5	-3.0 (-4.6)
サ ー ビ ス	3,951,201	0.8	-12.8 (-14.7)
そ の 他	9,510,637	1.9	2.2 (0.7)
商 品 券	7,017,547	1.4	-7.0 (-7.9)

注) 構成比は計算処理上必ずしも100%にはなりません。商品券は総額に含まれません。また、商品券の構成比は、総額に対する比率です。本統計には消費税は含まれておりません。

Ⅱ. 地区別の動き

- | | |
|------------------|---------------------------|
| 1. 10都市売上動向 | －3.1% (店舗数調整後／2か月連続マイナス) |
| 2. 10都市以外の地区売上動向 | －2.5% (店舗数調整後／21か月連続マイナス) |

【地区別売上前年比の寄与度とトレンド】

地区	売上前年比	寄与度	トレンド
10都市	－3.1	－2.2	2か月連続マイナス
札幌	－1.1	－0.0	3か月ぶりマイナス
仙台	－1.3	－0.0	2か月連続マイナス
東京	－2.9	－0.8	2か月連続マイナス
横浜	－3.2	－0.2	2か月ぶりマイナス
名古屋	－1.2	－0.1	4か月ぶりマイナス
京都	－3.2	－0.1	2か月ぶりマイナス
大阪	－3.8	－0.5	4か月ぶりマイナス
神戸	－7.9	－0.2	3か月連続マイナス
広島	－5.3	－0.1	3か月連続マイナス
福岡	－2.1	－0.1	6か月ぶりマイナス
10都市以外の地区	－2.5	－0.7	21か月連続マイナス
北海道	22.5	0.1	2か月ぶりプラス*
東北	－2.3	－0.0	17か月連続マイナス*
関東	－3.8	－0.5	7か月連続マイナス
中部	－1.5	－0.0	7か月連続マイナス
近畿	－1.6	－0.1	4か月ぶりマイナス
中国	－5.2	－0.1	10か月連続マイナス*
四国	－3.8	－0.1	3か月連続マイナス
九州	－0.2	－0.0	3か月連続マイナス*

(注) 北海道、東北、中国、九州については、2006年1月からそれぞれ札幌、仙台、広島、福岡を10都市に移行した。(2005年までは6大都市)

Ⅲ. 商品別の動き

主要5品目は、26か月ぶりに全品目がマイナスとなった。その他の品目は、化粧品が46か月連続のプラスとなった。

【商品別売上前年比の寄与度とトレンド】

商品別	売上前年比	寄与度	トレンド
総額	-2.9	—	3か月連続マイナス
紳士服・洋品	-3.9	-0.3	7か月連続マイナス
婦人服・洋品	-5.4	-1.3	3か月連続マイナス
子供服・洋品	-8.9	-0.2	7か月連続マイナス
その他衣料品	-4.2	-0.1	39か月連続マイナス
衣料品	-5.2	-1.9	7か月連続マイナス
身のまわり品	-2.4	-0.3	4か月ぶりマイナス
化粧品	0.3	0.0	46か月連続プラス*
美術・宝飾・貴金属	-2.2	-0.1	5か月ぶりマイナス*
その他雑貨	-1.3	-0.0	4か月ぶりマイナス
雑貨	-0.8	-0.1	26か月ぶりマイナス
家具	-4.2	-0.0	2か月連続マイナス
家電	-8.6	-0.0	5か月連続マイナス
その他家庭用品	-2.7	-0.1	34か月連続マイナス
家庭用品	-3.3	-0.1	37か月連続マイナス
生鮮食品	-3.9	-0.2	3か月連続マイナス*
菓子	-0.1	-0.0	4か月ぶりマイナス
惣菜	-1.0	-0.1	3か月連続マイナス*
その他食料品	-0.8	-0.1	3か月連続マイナス*
食料品	-1.2	-0.3	3か月連続マイナス
食堂喫茶	-3.0	-0.1	21か月連続マイナス
サービス	-12.8	-0.1	14か月連続マイナス
その他	2.2	0.0	3か月ぶりプラス
商品券	-7.0	-0.1	95か月連続マイナス

(注) 化粧品、美術・宝飾・貴金属、その他雑貨、生鮮食品、菓子、惣菜、その他食料品については2006年1月から細分化した。

平成31年1月 東京地区百貨店売上高概況

平成31年2月21日

I. 概況

1. 売上高総額	1,328億円余
2. 前年同月比	-2.9% (2か月連続マイナス)
3. 店頭・非店頭の増減	店頭-3.5%(92.0%) : 非店頭4.9%(8.0%) ()内は店頭・非店頭の構成比
4. 調査対象百貨店	13社 25店 (平成30年12月対比±0店)
5. 総店舗面積	839,179㎡ (前年同月比:-0.7%)
6. 総従業員数	17,698人 (前年同月比:-1.4%)
7. 3か月移動平均値	6-8月 1.1%、7-9月 -1.2%、8-10月 1.5%、 9-11月 1.0%、10-12月 0.3%、11-1月 -1.2%

[参考] 平成30年1月の売上高増減率は-0.2%

【特徴】

- 1月の東京地区入店客数は、人気催事やカード会員施策、一部店舗の改装効果による客数増もあり0.9%増と15か月連続でプラスした。半面、売上高については、景気の先行き懸念による消費意欲低下、月前半のセール不振、免税品規制強化によるインバウンドの苦戦などマイナス与件が重なり、2.9%減と2か月連続マイナスとなった。
- 衣料品は、暖冬の影響でジャケットやブラウスなど中・軽衣料が堅調で、春物にも一部動きが見られたものの、コートなどの重衣料や防寒アイテムは不調だった。身のまわり品はラグジュアリーブランドのバッグは好調だったが、靴については、この時期主力のブーツを中心に紳士・婦人共に動きが鈍くマイナスに転じた。
- 雑貨は26か月ぶりにマイナスした。化粧品は国内顧客中心に好調で46か月連続増、その他雑貨は法人需要などもあり14か月連続プラスとなったが、高額品については株価の軟調さから逆資産効果も一部に見られ、宝飾品や高級時計などが苦戦した。
- 食料品は、年賀ギフトとしても人気の高い菓子が5か月連続でプラス。物産展やその他食品催事も好調で売上と集客に寄与したが、トータルでは前年実績には届かず6か月ぶりのマイナスとなった。なお、月末のバレンタイン商戦は自家需要も伸長しており、堅調な滑り出しを見せている。
- 2月中間段階の商況は、0.6%減(2/18)で推移している。

【要因】

- 営業日数増減 30.0日 (前年同月比 +0.2日)
- 入店客数増減 (回答店舗数で見る傾向値/前年同月比/有効回答数19店舗)
①増加した: 3店、②変化なし: 9店、③減少した: 7店
- 1月歳時記 (初売り、クリアランス) の売上 (同上/有効回答数14店舗)
①増加した: 1店、②変化なし: 5店、③減少した: 8店

東京地区百貨店 売上高速報 2019年1月

	売上高(千円)	構成比(%)	対前年増減(-)率(%)
総 額	132,893,951	100.0	-2.9
紳士服・洋品	12,611,957	9.5	-4.3
婦人服・洋品	27,454,549	20.7	-4.2
子供服・洋品	2,354,136	1.8	-6.7
その他衣料品	2,668,667	2.0	3.6
衣 料 品	45,089,309	33.9	-3.9
身のまわり品	20,025,936	15.1	-3.6
化粧品	13,186,677	9.9	1.9
美術・宝飾・貴金属	7,290,311	5.5	-10.7
その他雑貨	6,098,707	4.6	3.6
雑 貨	26,575,695	20.0	-1.5
家 具	1,340,558	1.0	-1.6
家 電	584,466	0.4	-18.2
その他家庭用品	3,449,540	2.6	-4.7
家 庭 用 品	5,374,564	4.0	-5.6
生 鮮 食 品	3,905,063	2.9	-5.2
菓 子	8,103,129	6.1	1.3
惣 菜	6,266,448	4.7	-1.2
その他食料品	9,636,590	7.3	-1.8
食 料 品	27,911,230	21.0	-1.3
食 堂 喫 茶	2,716,006	2.0	-6.6
サ ー ビ ス	1,357,062	1.0	-26.3
そ の 他	3,844,149	2.9	12.3

注) 構成比は計算処理上必ずしも100%にはなりません。

本統計には消費税は含まれておりません。

対前年増減(-)率(%)

商 品 券	1,666,533 千円	-2.2
従 業 員 数	17,698 人	-1.4
店 舗 面 積	839,179 m ²	-0.7

営 業 日 数	30.0 日	前年	29.8 日
---------	--------	----	--------

Ⅱ. 商品別の動き

主要5品目は、27か月ぶりに全品目がマイナスとなった。その他の品目は、化粧品が46か月連続、その他雑貨が14か月連続、菓子が5か月連続、その他衣料品が2か月ぶりのプラスとなった。

【商品別売上前年比の寄与度とトレンド】

商品別	売上前年比	寄与度	トレンド
総額	-2.9	—	2か月連続マイナス
紳士服・洋品	-4.3	-0.4	4か月連続マイナス
婦人服・洋品	-4.2	-0.9	2か月ぶりマイナス
子供服・洋品	-6.7	-0.1	4か月連続マイナス
その他衣料品	3.6	0.1	2か月ぶりプラス
衣料品	-3.9	-1.3	3か月連続マイナス
身のまわり品	-3.6	-0.5	4か月ぶりマイナス
化粧品	1.9	0.2	46か月連続プラス*
美術・宝飾・貴金属	-10.7	-0.6	2か月連続マイナス*
その他雑貨	3.6	0.2	14か月連続プラス*
雑貨	-1.5	-0.3	26か月ぶりマイナス
家具	-1.6	-0.0	2か月連続マイナス
家電	-18.2	-0.1	5か月連続マイナス
その他家庭用品	-4.7	-0.1	7か月連続マイナス
家庭用品	-5.6	-0.2	5か月連続マイナス
生鮮食品	-5.2	-0.2	4か月連続マイナス*
菓子	1.3	0.1	5か月連続プラス*
惣菜	-1.2	-0.1	2か月ぶりマイナス*
その他食料品	-1.8	-0.1	6か月ぶりマイナス*
食料品	-1.3	-0.3	6か月ぶりマイナス
食堂喫茶	-6.6	-0.1	5か月連続マイナス
サービス	-26.3	-0.4	4か月ぶりマイナス
その他	12.3	0.3	4か月ぶりプラス
商品券	-2.2	-0.0	4か月連続マイナス

(注) 化粧品、美術・宝飾・貴金属、その他雑貨、生鮮食品、菓子、惣菜、その他食料品については2006年1月から細分化した。

お問い合わせは、日本百貨店協会 森・橘・長柴 まで
TEL 03-3272-1666 ホームページアドレス <http://www.depart.or.jp>